

本わさび抽出物のスギ花粉症軽減効果

○永井 雅、奥西 勲(金印株式会社)、
奥野吉昭(おくの耳鼻咽喉科)、榎本雅夫(日本赤十字社和歌山医療センター 耳鼻咽喉科)

【背景】スギ花粉症はその罹患率が全人口の16%にも達することから国民病ともよばれるアレルギー疾患であり、しかも罹患者数は年々増加している。本症の治療には、ケミカルメディエーター受容体拮抗薬(抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬など)、ケミカルメディエーター遊離抑制薬、ステロイド薬などによる薬物療法がもっぱら行われている。しかしいずれの薬物も継続的に服用する必要があることから、それによる副作用や薬剤相互作用の発現が問題となっている。そのために薬物治療の代替手段または補助手段として、現在花粉症に効果があるといわれている食品が数多く利用されているが、十分な科学的評価がなされているものは多くない。

本わさびは、日本原産の植物であり、古くは薬草として利用され、現在では薬味として日本料理には欠かせない食材となっている。本わさびには古くから知られている抗菌作用や食欲増進作用に加えて、抗がん作用および抗炎症作用があることが示されている。とくに抗炎症作用については、詳細な作用メカニズムが検討されており、本わさびの特徴的な成分である6-メチルスルフィニルヘキシルイソチオシアネート(6-MSITC)による誘導的一酸化窒素合成酵素(iNOS)及びシクロオキシゲナーゼ(COX-2)の発現阻害作用が認められている。さらに、6-MSITCと接触したヒト好酸球の遊走活性が強く抑制されることから抗アレルギー作用をもつことも示唆されている。

これらの知見から、本わさびが花粉症の症状を軽減する可能性が考えられたので、下記のヒト試験を行った。

【方法】平成18年1月頃より、大阪府泉佐野市のスギ花粉症被験者10名に本わさびエキス末120mgを含む「わさび&オリーブ」をスギ花粉飛散時期約1ヶ月前より12週間連続摂取させ、スギ花粉症軽減効果をオープン試験により検討した。試験期間中、被験者にはくしゃみ発作回数、鼻汁(鼻をかんだ回数)、鼻閉、日常生活の支障度、眼の症状、抗アレルギー剤の摂取状況について毎日記録させた。試験食品摂取前、摂取4週間後、摂取8週間後、摂取12週間後の各時点において、医師による問診ならびに鼻症状及び鼻所見の観察を行った。

【結果】花粉症発症までの日数、症状重症度分類(symptom score)の変化、使用薬剤(medication score)の変化、これらを合算したSMS(symptom medication score)に加え、平成18年度の花粉尘飛散量及びそれに伴うアレルギー症状(くしゃみ、鼻閉等)を考慮し、各被験者の例年のスギ花粉症症状と比較し5段階(著明改善、改善、不変、悪化、不明)にてスギ花粉症の改善度を判定した。結果は、著明改善0名、改善2名、軽度改善5名、不変2名、悪化0名、不明1名となった。9例中7例(78%)が改善または軽度改善と判定されたことより、試験食品をスギ花粉症時期1ヶ月程度前より摂取することによりスギ花粉症を軽減できるものと考えられた。

また、血液検査、尿検査において特に問題となる変動はなく、安全性に問題はないことが確認された。